

## 志村 恵「本の中のふたごたち」①

芭蕉みどり作「ふたごのこねずみティモシーとサラ」シリーズ！！

今回取り上げるのは、芭蕉みどりさんの絵本シリーズ「ティモシーとサラ」です。この絵本シリーズは僕もよく手に取るのですが、なんととっても娘たちが大好きでした。下の娘は、当時まだ幼稚園だったので当然ながら字が余り読めません。でも、たどたどしく一生懸命ひらがなを追って、そして、それに疲れてしまったら、舐めるように絵を見ていくのです。それもどんな隅っこのちょっとしたカットをも見逃さないゾ、といった一生懸命さで。子供が絵本を見るときに集中力、眼力にはいつも敬服させられます。

さて、このシリーズのお薦めの第一点は、なんとと言ってもその圧倒的なかわいらしさです。始めてこの絵本を手にしたとき（確か『ティモシーとサラのピクニック』だったと思います）、男の身ながら思わず「カ～ワイイ～」と声を上げてしまったほどでした。絵に関して申し上げれば、その色彩、構成、キャラクターたちの表情、背景にいたるまで、全体から優しさと暖かみ、かわいらしさとみずみずしい生活感が浮かび上がってきます。また物語も、シリーズのどの本もそうなのですが、「生」への信頼、肯定的な積極性が表現され、「いのち」自身の持つ輝きに溢れています。

ところで、ふたご、あるいはスーパー・ツインズ（三つ子以上の多胎児）のかわいらしさとは一体何なのでしょう。巷には、ふたごのかわいらしさを強調する絵本やグッズ、テレビ番組が溢れていますが、僕は双生児学会の席上、ふたごのかわいらしさを問題にして、かわいくない（僕は心の中では、全ての多胎児がかわいいと思っているのですが）ふたごは非常に社会的な心的ストレスを受けていると、自分自身の経験と、ふたごの友人たち、ふたごサークルの学生たちから聞いていた感想を踏まえて発言したことがあります。世間では、とてもかわいくて、しかもとても似ているふたごをちやほやしがりです。ですから、僕のようにあまりかわいくないふたごや、似ていない二卵性双生児、スーパーツインズには、あからさまに失望をもちることがあり、無意識のうちに傷つけたり、ふたごである事への否定的な評価・見方を芽生えさせたりしてしまうようです。他方で、人間には小さなものが二つ、あるいはそれ以上、並んで存在していると、それだけで本能的にかわいいと感じる何かがあるような気がします。子育てのサークルのリサイクルで見かけた、古くなって少し汚れた靴も、二足並ぶと、どういう訳かものすごくかわいい。自分がふたごだからではなく、どうも皆さんそう感じるようです。そうしてみると、どうやら「ふたごのかわいらしさ」とは、外面的な美的意味におけるかわいらしさとか、類似しているからかわいいとかそういったことも勿論ある程度はあるのですが、むしろ、ほぼ同じにこの世に生まれ出た複数のいのちが、並んで存在していることに関わっているのではないのでしょうか。そして、このシリーズの「かわいさ」を、僕はまさにそうした一緒に育っていくいのちたちの中に見たいと思います。苦勞して育て、見守っているふたご、スーパ

一ツインズはそれぞれに精いっぱい生きていて、それぞれの「かわいらしさ」を持っているのです。

児童書、絵本に多い、特に女女のそっくりふたごを登場させる、無責任な「かわいいふたご路線」とは違って、オスとメスのこねずみのふたごの日常生活のさまざまな「事件」を描くこのシリーズは、確かに「かわいいふたご路線」の延長上にはありますが、オスであるティモシーとメスであるサラのそれぞれの違いと性格があくまでも尊重されており、それでいて二人の信頼性、共同性が物語の軸になっています。また、それを基盤にしてこの二人のこねずみは、なんと自由でのびのびとしていることでしょうか。勿論子どもですから、あまえたり、すねたり、おこったりします。でも、それは子ども、いや人間（この場合は、ネズミですが）の成長に必要なことなのです。メスとオスのふたごと言うことで、性差に基づく役割分担を思わせる部分もあるのですが、それは自然の範囲の中にあると僕は思いますし、父親のきっちりとした育児への関わりも描けていて嬉しくなります。

男女のふたごを扱った作品には余りよいものは多くない気がしているのですが、このシリーズは、くろいわあきひとの『ふたごのこぐま トモとモモ1 きょうりゅうクッキー』（金の星社、1992年）と並んで、絵本として心から推薦できるものだと思います。



書影『おたんじょうびのおくりもの』（ティモシーとサラのえほん1）

<書誌情報>

芭蕉みどり『おたんじょうびのおくりもの』（ティモシーとサラのえほん1）ポプラ社、1989年。

芭蕉みどり『ふゆのよるのおくりもの』（ティモシーとサラのえほん2）1990年。

芭蕉みどり『パパのくれたおくりもの』（ティモシーとサラのえほん3）1991年。

芭蕉みどり『ティモシーとサラのピクニック』(ティモシーとサラのえほん4) 1993年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのパーティー』(ティモシーとサラのえほん5) 1995年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのきのおうち』(ティモシーとサラのえほん6) 1997年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのとりかえっこ』(ティモシーとサラのえほん7) 2000年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ たからのちず』(ティモシーとサラのえほん8) 2002年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラともりのようせい』(ティモシーとサラのえほん9) 2005年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラとデイジーさん』(ティモシーとサラのえほん10) 2006年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ ありがとうのおくりもの』(ティモシーとサラのえほん11) 2008年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ てづくりケーキコンテスト』(えほんとなかよし) (ティモシーとサラのえほん12)、2010年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ はなやさんからのてがみ』(ティモシーとサラのえほん13) 2012年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ ちいさなとしょかん』(ティモシーとサラのえほん14) 2015年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ かあさんのすきだった木』(ティモシーとサラのえほん15) 2018年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラ たのしいおうち』(ティモシーとサラのえほん16) 2020年。  
芭蕉みどり『チューリップのにわ』(ティモシーとサラの絵本1) 1992年。  
芭蕉みどり『ゆうびんやさんのオーケストラ』(ティモシーとサラの絵本2) 1992年。  
芭蕉みどり『おばあちゃんのかぼしゃパイ』(ティモシーとサラの絵本3) 1992年。  
芭蕉みどり『おじいちゃんのいす』(ティモシーとサラの絵本4) 1994年。  
芭蕉みどり『サラのやくそく』(ティモシーとサラの絵本5) 1994年。  
芭蕉みどり『ティモシーのたからもの』(ティモシーとサラの絵本6) 1999年。  
芭蕉みどり『まほうつかいがやってきた』(ティモシーとサラの絵本7) 1999年。  
芭蕉みどり『はながさくころに』(ティモシーとサラの絵本8) 2004年。  
芭蕉みどり『なないろのキャンディー』(ティモシーとサラの絵本9) 2004年。  
芭蕉みどり『ひなげしひめのおはなし』(ティモシーとサラの絵本10) 2007年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラとたからのちず』ポプラ社、2002年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのえはがきえほん ポプラ社のえはがきえほん』1999年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのくみたてえほん ポプラ社のたのしいくみたて絵本(2)』2000年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのオルゴールえほん1』ポプラ社、1996年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのオルゴールえほん2』ポプラ社、1996年。  
芭蕉みどり『ティモシーとサラのオルゴールえほん3』ポプラ社、1996年。

『ツインズ』25号（ビネバル出版）から転載